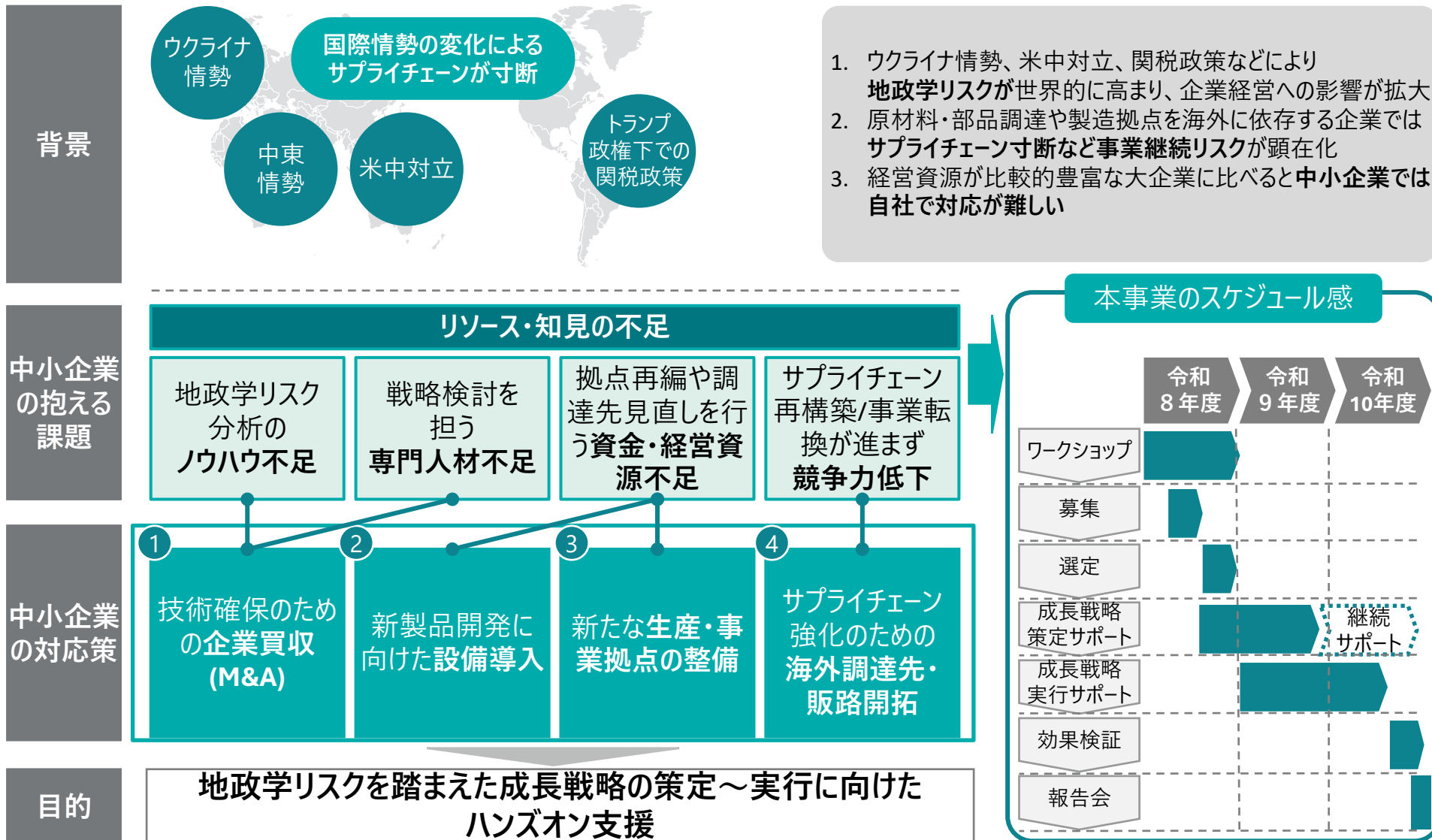


**東京都産業労働局 令和8年度グローバルサプライチェーン強化支援事業
事業説明会**

本事業の目的・概要

地政学リスクの高まりや国際情勢の急速な変化など、グローバルな事業環境の中で複雑化する経営課題に直面する都内中小企業を支援を実施いたします

本事業の背景・目的・実施事項の理解



本事業は、下記の条件を満たす都内の製造業を営む中小企業を主たる対象とし、要件を満たす企業に対し、戦略立案・実行を支援するものです

本事業で想定する中小企業の支援対象

支援対象の定義

海外展開を伴う事業活動を行っている、またはその必要性が高まっている企業



単なる診断に留まらず、成長戦略（3～5年）と実行計画まで意思決定できる企業

海外拠点の有無を問わず、輸出入・海外外注・海外販路・海外パートナーを含む

投資・体制構築・新規事業拡大を含む実行計画まで策定し、成果が「モデル化・横展開」できる企業

実務上の解釈（母集団特性を踏まえた前提条件）

	定義	典型パターン
海外取引 (拠点無)	<ul style="list-style-type: none"> □ 輸出入・海外外注・代理店取引あり、自社拠点なし 	<ul style="list-style-type: none"> □ 海外顧客への輸出、海外サプライヤーからの調達、商社経由の販売
海外拠点あり	<ul style="list-style-type: none"> □ 海外に製造・販売・管理等の拠点を有する 	<ul style="list-style-type: none"> □ 中国・ASEAN等に工場、欧米に販売拠点・子会社を有する企業

本事業は、以下の4類型を中心に、成長戦略の策定・実行にハンズオン支援を要する取組を支援します（複数類型にまたがる取組も対象）。

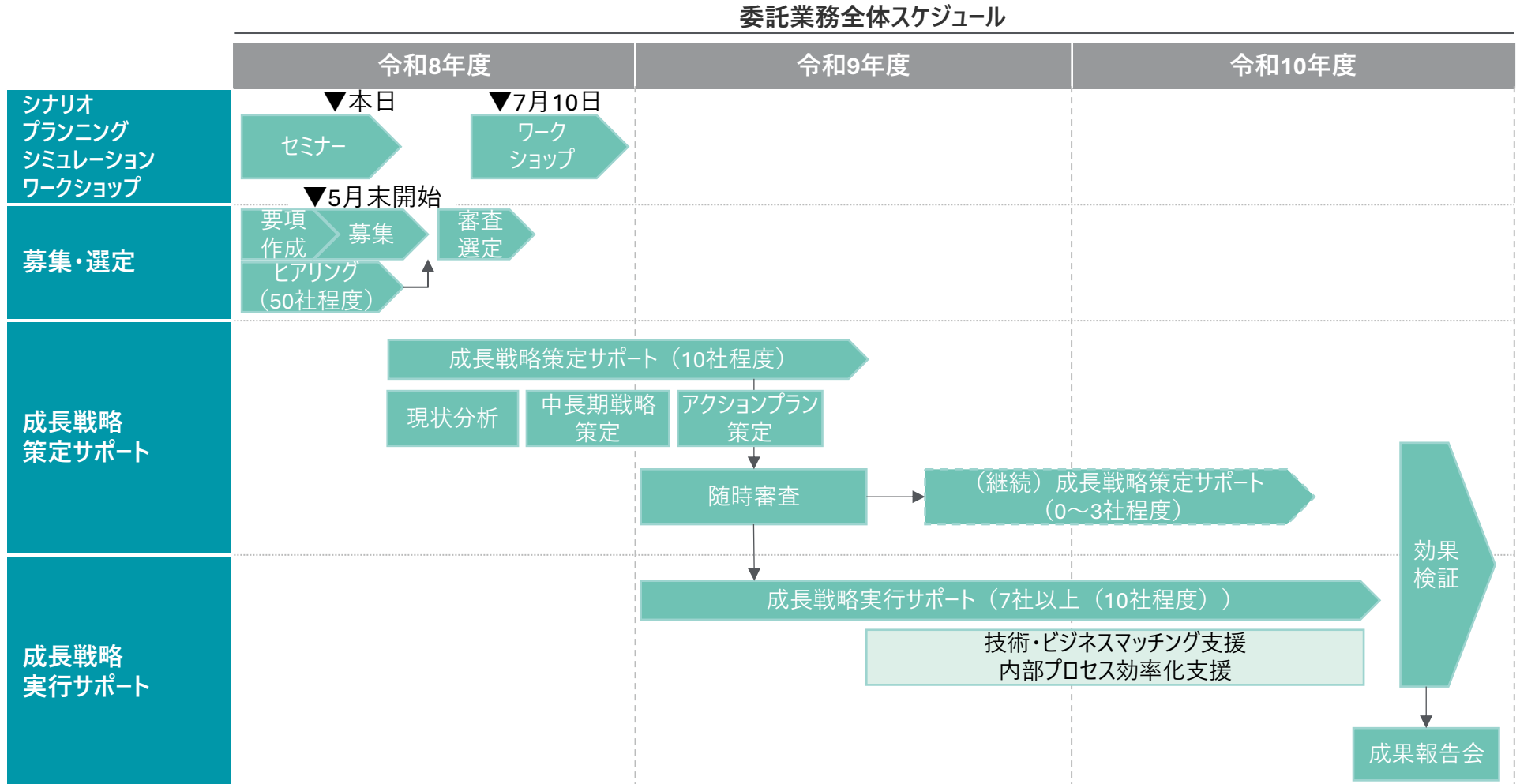
本事業支援内容

類型	内容	想定される具体例
新たな拠点整備	既存海外拠点の移転・再編／拠点の地域分散／国内回帰／都内投資の推進／新国・新地域への進出／国内外機能の再配置	特定国依存の高い生産をASEAN複数国に分散／重要部品の最終工程を国内拠点に移管／北米需要対応のためメキシコ・米国周辺に拠点候補を検討
最新設備の導入による新製品開発	サプライチェーン強靱化に資する新製品・新サービスの開発／スマートファクトリー化／省人化・自動化／品質保証・トレーサビリティ強化	調達制約のある材料を代替できる新製品開発／省人化設備により海外拠点の操業停止リスクを低減／重要工程の内製化
企業買収・資本提携等（M&A）	自社で補えない技術、製造能力、販売網、認証・規制対応力等を確保するためのM&A、資本業務提携、事業譲受、技術取得	海外取引先の代替となる国内技術保有企業を買収／特定国依存の重要技術を保有する企業と資本業務提携
新調達先・新販路開拓	サプライチェーン強化目的の新規調達先開拓、代替サプライヤー確保、地政学的に安定した市場への販路転換・複線化	単一国からの調達を複数国・複数社に分散／北米・欧州向け販売比率を高め特定地域の需要変動リスクを抑制

※ 上記①～④の取組を実行する上で必要となる「内部プロセスの効率化（購買・生産・在庫・物流・販売管理の見直し、DX、人材育成、ガバナンス整備等）」についても、併せて支援メニューの一部として提供します。

令和8年度から令和10年度にかけて、企業支援の専門家（令和8年度採択分受託者：合同会社デロイトトーマツ）が下記内容をトータルサポートします。

委託業務の全体スケジュール



募集要項概要

提出期間：令和8年5月28日(木)から令和8年7月31日(金)まで

応募に当たる必要書類

書類名	区分	内容
申請書	必須	運営事務局所定様式1号
企業概要書	必須	運営事務局所定様式2号
海外事業活動実績書	必須	運営事務局所定様式3号
新たな事業展開に関する構想書	必須	運営事務局所定様式4号
誓約書・同意書	必須	運営事務局所定様式5号
履歴事項全部証明書等	必須	法人は履歴事項全部証明書の写し（発行後3か月以内）。個人事業主は個人事業の開業・廃業等届出書の写し
直近3期分の決算書等	必須	貸借対照表、損益計算書、販売費及び一般管理費明細表、株主資本等変動計算書、出資関係図、キャッシュフロー計算書若しくは資金繰り表
海外事業活動の実績を示す書類	任意	海外拠点一覧、海外取引先一覧、海外売上高・仕入高の内訳、輸出入実績、海外契約書の写し、海外展示会出展実績等
会社案内・製品カタログ等	任意	会社概要、技術・製品の特徴、主要顧客、保有設備、知的財産、認証、表彰実績、メディア掲載等が分かる資料
補足資料	任意	市場調査資料、技術資料、サプライチェーン図、投資計画、M&A検討資料、組織図、製品ロードマップ等

書面審査を通過した企業は9月上旬に審査を行います

審査の流れ

区分	内容
形式審査	応募要件への適合、提出書類の不足・不備、欠格事由の該当性を確認。通過しない場合、書類審査に進めません。
書類審査	提出書類に基づき、審査項目ごとに採点。必要に応じて、技術・財務・海外ビジネス等の外部有識者の意見を聴取。
面接審査	書類審査を通過した企業を対象に、経営層によるプレゼンテーション及び審査委員との質疑応答（原則対面）。
	面接審査は、9月上旬を予定しています。日付については8月初旬に、時間については書類審査通過後に案内します。
支援企業決定	書類審査及び面接審査を経て支援企業を決定。

以下の観点を総合的に評価します。

審査項目

審査項目	評価の観点
企業の成長性	全社戦略と取組の整合性、売上・利益の成長余地、経営層のコミットメント、企業価値向上可能性
技術・製品の革新性及び市場性	競争優位性、顧客ニーズ適合、差別化、知的財産、認証・品質、市場規模・成長性
地政学リスク対応・サプライチェーン（SC）強化の妥当性	リスク認識の具体性、SCの脆弱性把握、調達・製造・物流・販売の再構築効果、レジリエンス向上
取組の実現可能性	事業計画の具体性、実施体制、スケジュール、投資規模、資金調達、社内意思決定
業界の将来性及び技術動向	業界トレンド、規制・標準化、顧客産業の変化、技術進化への適合性
東京都としての支援の必要性	自社単独で困難な課題の有無、ハンズオン支援との適合性、他制度では代替しにくい支援ニーズ
財務の健全性	直近3期の売上・利益・キャッシュフロー、自己資本、借入状況、投資負担への耐性
モデルケースとしての波及効果	都内産業の活性化、他中小企業への参考性、雇用・投資・取引拡大、成果公表の可能性

ご関心がある企業に向けて

幅広い層に向けた地政学の最新動向セミナー開催ののち、ワークショップにおいては、事業戦略策定の素材を作成し、より実務に役立つコンテンツを企画しております

掘り起こし・募集フェーズにおけるイベント・ワークショップ概要

	Phase1 関心喚起	Phase2 掘り起こし
	セミナー	ワークショップ
	セミナー後にWS・事前相談	WS後に応募相談
目的	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の認知の拡大 地政学リスクについての問題意識を醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 自社リスクと対応方針を主体的に整理可能にする その整理プロセスが応募論点の明確化につながり、応募書類の具体性・論理性を高める
想定対象	関心層～応募検討層 (幅広い層)	応募に近い層 (海外依存・課題感あり、経営/企画/サプライチェーンM)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 地政学リスクやサプライチェーン構築の最新動向の共有 中小企業の具体的な事例の紹介 事業説明会の同時開催 <p>支援内容 → 応募要件 → 審査観点 → 採択後の支援の流れ</p> <p>▶アーカイブ視聴可</p>	<p>参加企業が主体となり、以下を整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 自社サプライチェーン構造の可視化 地政学リスクの洗い出し シナリオプランニング対応策の検討と優先順位づけ <p>▶対面・実践型</p>
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> 自社課題としての認識を促す 制度理解を深め、応募検討頂くとともに裾野を拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 課題設定と対応方針の明確化 応募書類の具体性・論理性の向上 採択後の伴走支援への円滑な移行

応募・審査

ワークショップにおいて自社リスクと対応方針を主体的に整理可能にし、整理プロセスが応募論点の明確化につながり、応募書類の具体性・論理性を高めます

ワークショップの概要

目的	<ul style="list-style-type: none">掘り起こし/応募素材 (課題・打ち手) の形成上半期WSで応募候補企業へサポート提供対面形式 + ファシリテーターが対面で進行
アジェンダ	<ol style="list-style-type: none">1. イントロ (10分)2. 現状可視化 (20分)3. リスクドライバー提示 (10分)4. シナリオ作成 (25分)5. インパクト評価 (20分)6. 打ち手の発想 (20分)7. 優先順位付け (10分)8. まとめ (15分)
参加者	事業への応募を検討されている企業
場所	千代田区新東京ビル
開催時期	2026年7月10日 15時～17時

本ワークショップの設計案

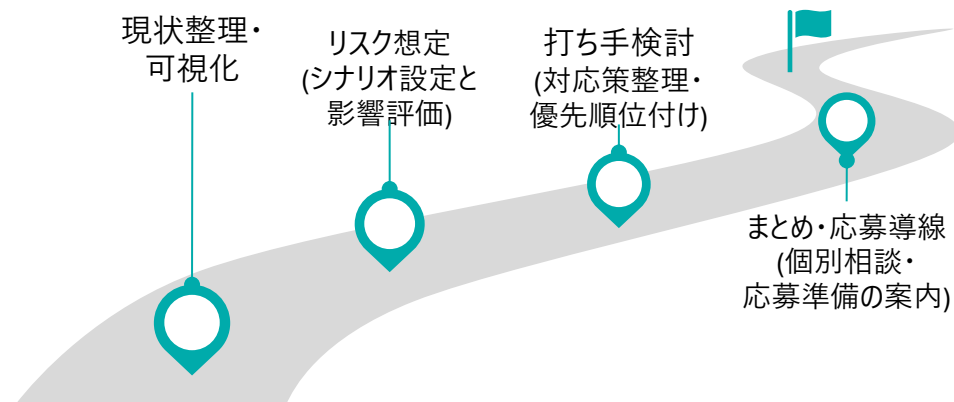
狙い

- 参加企業の当事者意識を高め、応募に必要な論点を整理
- 支援効果最大化につなげる

□ コンテンツとロードマップ

事前準備 (配布物)

- 「簡易サプライチェーンマップ雛形」
- 「重要部材・重要顧客リスト」入力シート



□ 成果物

- 簡易サプライチェーンマップ (依存度付き)
- 主要シナリオ2～3本とインパクト評価
- 打ち手の優先順位 (短期/中期/長期)
▶そのまま応募書類の“核”に転用可能

ワークショップの場において、簡易サプライチェーンマップ、リスクシナリオの作成を進め、最終的には成果物が本事業公募に向けた企画書になることを目指します

ワークショップシナリオプランニングの進め方

ワークショップの実施フレーム (作業プロセス)

STEP 1

現状可視化

簡易サプライチェーンマップ作成

調達 → 製造 → 販売

- ✓ 国/地域
- ✓ 依存度 (高/中/低)
- ✓ 代替可否
- ✓ LT/影響
- ▶ 上記の流れで整理

STEP 2

リスクシナリオ作成

シナリオ

- A: 主要調達国で輸出規制 + 物流遅延
- B: 主要市場で関税 + 10% + 為替変動
- C: 特定地域で政情不安 → 生産停止 (拠点リスク)

- ✓ 何が起きるか (トリガー)
- ✓ 影響対象 (部材・工程・市場)
- ✓ 時間軸での影響 (1週/1か月/3か月)

STEP 3

インパクト評価

○△×や概算で評価

- ✓ 売上影響
- ✓ 原価影響
- ✓ 納期影響
- ✓ 品質影響
- ✓ 代替手段の有無

STEP 4

打ち手整理

時間軸別に整理

- ✓ 短期 (～6か月)
- ✓ 中期 (6～24か月)
- ✓ 長期 (2～3年)
- ✓ 外部連携が必要な領域 (協業/M&A/共同開発等)

STEP 5

優先順位付け

効果×難易度で分類

- ✓ すぐやる (Quick win)
- ✓ 計画してやる (Plan)
- ✓ 保留/捨てる (Drop)

STEP 6

最終成果物

A3 1枚にまとめる

- ✓ 現状の海外依存の偏り
- ✓ 優先シナリオ
- ✓ 優先打ち手
- ✓ 次のアクション